

「ひろしま住まいづくりコンクール」は、住む人の笑顔とプロフェッショナルたちの成果を広く伝える場所です。



ひろしま 住まいづくり コンクール²⁰¹⁶ 作品集

INDEX

- 01-02  広島県知事賞
光と風を導く階段を中心に ～多世代が共に暮らすいえ～
高野 俊吾さん [高野俊吾建築設計事務所]
- 03-04  リフォーム部門 最優秀賞
夫婦のリズム“100cm eye”リフォーム
舛木 清子さん [株式会社リフォームセンター]
- 05  リフォーム部門 優秀賞
次世代への継承 古民家再生
大賀 渡さん [南道建設]
- 06  リフォーム部門 優秀賞
焼山高台の古民家
栄花 彰子さん [エンロハスデザイン一級建築士事務所]
- 07  リフォーム部門 奨励賞
リノベーションとDIYで実現した住まい
假屋 誠さん [株式会社 SMART ONE DESIGN]
- 09-10  新築部門 最優秀賞
まき日の家
大町 知己さん [kitokito]
- 11  新築部門 優秀賞
トンネルの家
櫻井 朗さん [KALEIDO DESIGN]
- 12  新築部門 優秀賞
向洋の家
藤原 慎太郎さん・室 喜夫さん [藤原・室 建築設計事務所]
- 13  新築部門 奨励賞
暮しをデザイン「松ヶ原レモンの家」
西本 浩司さん [中川建設株式会社]
- 14  新築部門 奨励賞
インナーテラスの家
後藤 亜貴さん [後藤亜貴建築設計事務所]
- 15  空き家再生部門 優秀賞
古さを慈しみ、若い世代が繋ぐ家
田中 健太郎さん [株式会社タナカ住建]
- 16  空き家再生部門 優秀賞
街中のアトリエ付住宅「今と昔が出会った家」
品川 洋子さん [株式会社エコデザイン工房]
- 17-18  特別賞 三世代の住まいづくり賞
「栗原町の家」 ～三世代で支え合う暮らし～
平田 欽也さん [一級建築士事務所アトリエ平田]
- 19-20  特別賞 まちなかに集う暮らし賞
杜のアレイ(横丁) ～ヤマモミジの家～ ～ヤマボウシの家～
竹野内 政信さん [株式会社竹野内建設]

～ ごあいさつ ～

ひろしま住まいづくりコンクールは、優れた住まいづくりを表彰し、住まいづくりの見本・参考事例として広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。また、このコンクールでは、名称に「住宅」ではなく「住まいづくり」という言葉を使っていますが、これは、個人が所有して住まう住宅において豊かな暮らしを実現するために重要な、住まいづくりの各段階における「住み手と作り手の“想い”のキャッチボール」にスポットを当てたいと考えているからです。

このコンクールは今回で7回目を迎えましたが、回を重ねるごとに、ひろしまの住まいづくりが豊かなものとして実りつつあると感じています。今回は59作品(リフォーム部門31作品、新築部門24作品、空き家再生部門4作品)の応募があり、審査委員会による厳正な審査の結果、広島県知事賞をはじめとする14点の受賞作品を選定いたしました。審査の過程で行われた現地審査では、応募者や建築主から、住まいづくりによって実現した暮らしについて直接話を聞くことができ、住み手の個性的で魅力的なライフスタイルが垣間見えたことにより高く評価された作品が多かったようです。

このたび広島県知事賞を受賞した作品は、今後のライフスタイルを見据えて築34年の木造住宅の住環境を大きく改善したもので、吹抜け階段を中心に玄関やリビングを回遊動線で繋ぐことにより、内部空間の一体感を高めたほか、ハイサイドライトの設置により通風や採光を確保するなど、リノベーションの魅力的な作品です。

また、各部門とは別に、特色のある2作品を特別賞としました。「三世代の住まいづくり賞」は、両親の住まいを全面リフォームするとともに、隣接する敷地に若い世帯の住まいを新築した作品で、世代間で支え合う豊かな暮らし方を実現した作品です。「まちなかに集う暮らし賞」は、施主と設計者・施工者の密接な関わりあいの中で、住宅地の一画に3棟の住宅を計画的に配置した作品で、集住形式にも関わらず、広がりのある外部空間によってそれぞれが独立した暮らし方を実現した作品です。

この作品集には、受賞作品14点の、住まいづくりにおける住み手の想い、設計者や施工者のノウハウや創意工夫、住み手と創り手の協働作業の成果が詰まっています。

皆様に魅力的な住まいづくりとして共感していただくとともに、住まいづくりを考える際の参考としていただくことにより、理想の住まいづくりの一助となれば幸いです。

最後に、このコンクールに応募いただいた多くの皆様、厳正な審査をしてくださった福田委員長をはじめとする審査委員会の皆様、そして、御協力いただいた関係団体の皆様に対して、厚く御礼申し上げます。

平成29年3月

広島県都市建築技術審議官 石岡 輝久



光と風を導く階段を中心に

多世代が共に暮らすいえ

廿日市市



既存梁を利用した天井、浮造りの無垢フローリング、珪藻土の壁で構成。造作棚のガラス越しに階段が見える。



キッチンに面したリビング・ダイニング角のスタディスペース。出窓を利用した机と棚を造作。



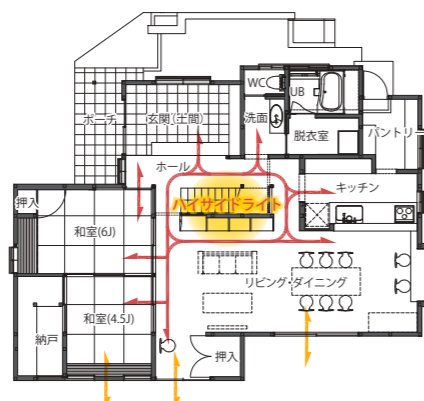
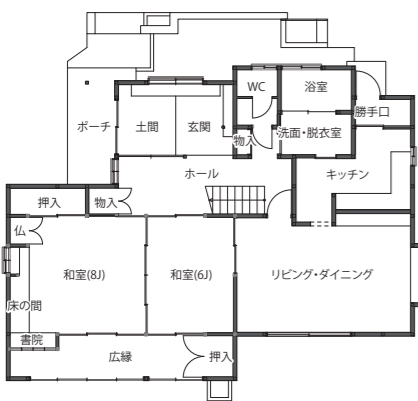
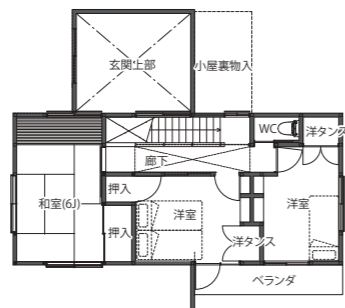
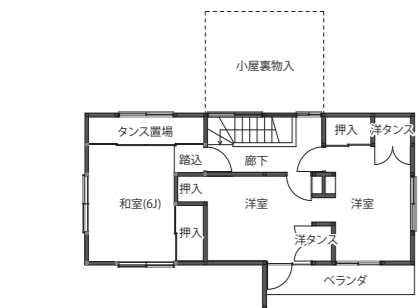
必要に応じて格子の引き戸を開閉することで空気の流れを制御し、温熱環境をコントロール。



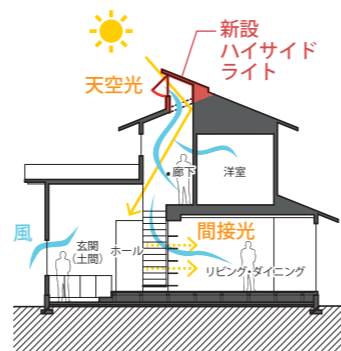
玄関の天井を撤去して吹抜の階段ホールとし、それぞれが独立していた各室を階段を中心に繋ぐ。

before

after



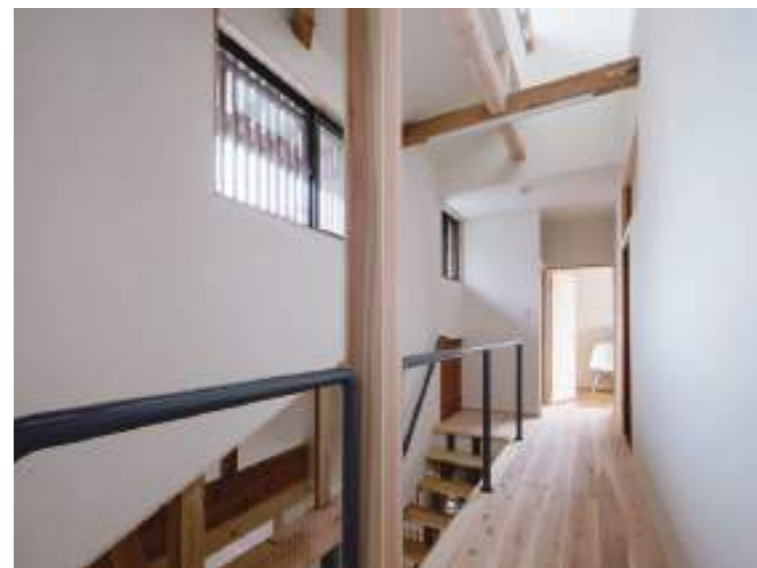
新たに追加されたハイサイドライトのある外観。既存外観と調和した色調・素材を選択。



リフォーム前の和室と広縁を整理し、リビングと和室が直接庭と接することで内外のつながりを強めた。



和室とみんなが集まるリビングは仕切戸を開けることによって一体的に使用することができる。



屋根の一部にハイサイドライトを新設。安定した光が降り注ぎ、煙突効果により上昇する夏場の熱気を排出。

創意工夫点

34年前に建てられた木造住宅。次世代に引き継がれたいま、いま、いま、これからの暮らしに合わせてリノベーションを行った。

床・壁・サッシの断熱化や耐震壁の追加など技術的な性能の向上と共に、階段上部の屋根を抜きハイサイドライトを導入。自然採光を可能とし、通風を促す階段をいえの中心として回遊動線を設け、各室を繋いだ。回遊動線廻りのガラス壁や格子戸を介して互いを窺い知れる計画とすることで、多世代が共に暮らすこと常を意識できるように配慮した。

建築主	大植 歩さん
設計者	高野 俊吾さん 「高野俊吾建築設計事務所」
施工者	永本 清三さん「永本建設㈱」
TEL	(0990)93776082
TEL	(0829)316655

写真 / 野村和慎

選評 審査委員長 福田由美子

古民家というほど古くはないものの、現代のニーズに合わなくなった住宅は多く存在する。これは、34年前に在来工法で建てられた一般的な木造住宅が、屋根に新たに穴を開けるといふ思い切った方法により、生まれ変わった好事例である。ハイサイドライトとつながる吹抜けや階段を家の中心とすることで、光や空気が人の循環が可能となり、住環境が大きく改善されている。ほとんど変化していない外観において、新設屋根が象徴的である。



建物頂部のハイサイドライトから内部の光が街ににじみ出る。

夫婦のリズム“100cm eye”リフォーム

広島市



3つの居室をフレキシブルにつなぎ可変性を持つ間取りとし動線を妨げる凹凸を無くした。



介助や車いすの大きさを考慮して洗い場が広い浴室へ。浴槽も姿勢が保持しやすい奥行き。



ご主人が車いすから降りてくつろげる和室。以前の和室より、床高を上げる事で目線の高さも奥様と一緒に。

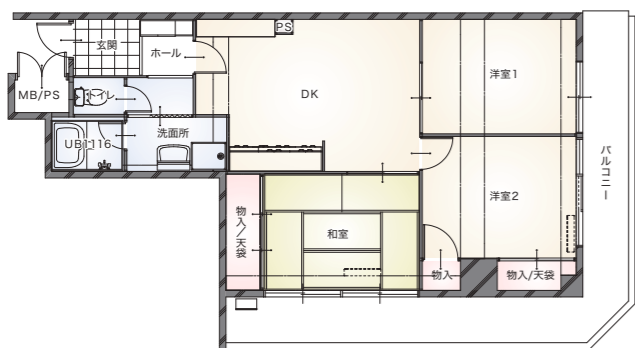


車いすが転回できない洗面室からホールへ洗面台を移動。帰宅時の動線でもあり、手洗いうがいも習慣に。

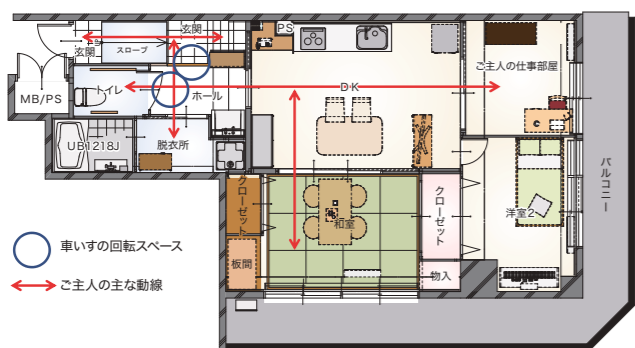


畳の下は全面収納。季節物や、独立したこどもの荷物も余裕の収納力。

before



after



和室・洋室のどちらからも使用できる収納。畳の床高を上げたので高いところでも手が届くようになった。



引き戸と同じ感覚で開閉できる扉の向こう側には、車いすのご主人がひとりで入りやすいトイレ空間。



外出用の車いす収納スペース。上の棚は奥様の外出用・真ん中は共有で利用する外出用小物収納スペース。



before



洋室側。和室に来客中でもここからご主人の衣類等を収めることができ、共働き夫婦にはとても重宝。



各室の広さと通路幅を見直し、動線をまとめることで確保した車いすの転回・移乗スペースの空間。

創工工夫点
奥様の目線と車いすのご主人の目線（100cm）の違いを意識し、収納は高さで分けることで夫婦お互いに使いやすいよう設計。
各室の広さと通路幅を見直し、動線をまとめることでゆとりの空間、車いすの転回・移乗スペースを確保。3つの居室はフレキシブルに繋がる間取りとし、座卓とテーブルを繋げて娘家族たちと大勢で囲えるダイニングとなるよう設計。
将来を見据えてホールや廊下の壁面へ手摺り用下地補強も施し、断熱工事で室温のバリエーションも図った。

建築主	非公表
設計者	株式会社リフォームセンター TEL(082)5077008
施工者	山口修さん 株式会社リフォームセンター TEL(082)5077008
企画 立案者	田丸貴子さん 株式会社リフォームセンター TEL(082)5077008

選評 審査委員 元廣 清志
水廻りの老朽化や結露などを見事に解決し、断熱効果と遮音効果で、寒暖差解消と省エネ化を図っている。特筆できるのは、自宅で仕事をする御主人が車椅子で移動しやすい様、車椅子の回転場、トイレに出入りしやすい入口と広さ、自分で乗降できる和室を設けるなど、随所に工夫がみられる。収納スペースを和室の床下なども利用して、たっぷり取っている。外部へ車椅子で出入りができるなど、今後の生活スタイルもしっかりと考えた、参考になる事例として、優れたプランである。



外壁面へ断熱材を充填。二重窓と併せて外気温に左右されず省エネ性向上にも一役。



次世代への継承 古民家再生

広島市



吹抜け空間を設け、既存の柱・梁・鴨居・欄間などを生かしている。



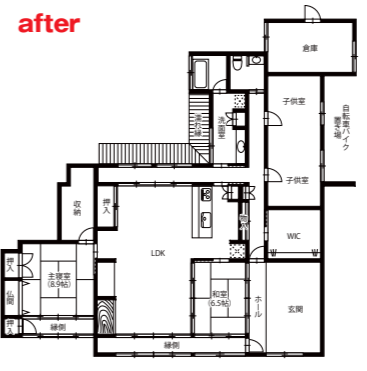
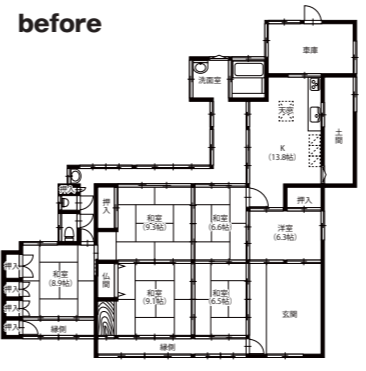
before



梁や天井、舞良戸など既存のまま生かし、正面に新たな通路を設けた。下駄箱・沓脱石も新たに設置した。



納屋が接合されていた部分の屋根を新たに設置し、既存の風合いを損なわないような形状とした。



もともと仏間のあった和室は天井をそのまま生かし、リビングとして再生した。



焼山高台の古民家

呉市



玄関を入るとすぐのLDKに広がる連続木製建具は、大きく開放できるよう柱の外側に設置。格子戸は再利用品。



before



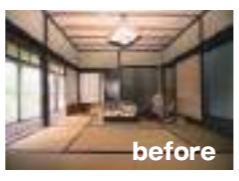
土間から茅が見えるノスタルジー空間。屋根裏を開放しておくことで茅の痛みも軽減。



LDKと東庭を挟む大きな濡れ縁。近所の方とのお話や、本を読んだりする最高のひだまり空間。



after

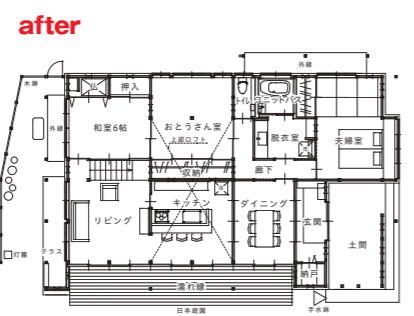
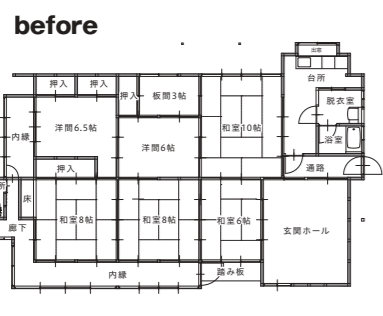


before

リビングは3.5mの天井高で開放感のある大空間。ロフトへ上がる階段とロフトからの小窓がアクセントに。



外壁は焼杉と白しっくい。再利用した手水鉢を玄関前に配置。茅を銅板で囲う趣きのある屋根はそのまま。



選評

審査委員 田中健太郎

一度は建替え予定であった明治期に建てられた茅葺きの古民家。老朽化が進み改修するには高度な施工技術が求められるが見事に再生している。特に耐震対策として劣化した柱の一部を取り除き新しい材で補う伝統技法「根継ぎ」と新設柱・耐力壁の設置で補強もしつつ、古民家の趣きを活かした意匠性も考えられている。何よりも施主の想いを大切にしており満足度も高くこれから次世代に残して欲しい作品である。

創意工夫点

明治時代からの古民家をおじいちゃんの終の棲家として、また孫の代まで繋げる家に改修。冬の寒さと老朽化が一番の心配所だったが、断熱対策・構造補強対策をしっかりと計画し実現した。建物全体を外側から断熱材気密材で包囲し、内部の趣きある意匠を活かしつつ温熱環境を大きく改善。増改築部分を減築し本来の架構を再生、耐力壁等で適切に補強して安定感ある構造体にも、日々楽しく過ごせるよう、家全体を暗くしていた内縁を外縁にしてLDKを明るく広く繋げつつ、天井高に高低をつけて奥行ある空間を演出した。

建築主	非公表
設計者	栄花 彰子さん エーノハスデザイン 級建築士事務所 TEL(090)16851261
施工者	高橋 正人さん「高橋工務店様」 TEL(0823)345585
企画 立案者	施工者と同じ

選評

審査委員 宮地正人

100年の時を刻んだ建築が次世代に引き継がれ、数十年いやもう世紀と新たな歴史を積み重ねていくことに思いを馳せるとき、先人の技術力に敬服するとともに解体ではなく再生に舵を切った施主の決断とそれに応えた工事関係者の皆さまに賛辞を贈りたい。仏間を改修したりリビングや敢えて既存の小屋組みを現したダイニングキッチンをはじめ、既存部分との調和を図りつつ、現代の生活様式にあった機能性・デザイン性を追求し、施主の満足度の高い再生を実現している。

創意工夫点

漆喰仕上げの吹き抜け空間を設けることで、空間の広がりや明るさを感じられる計画とした。床のレベル差を修正したうえで、古民家ならではの柱や梁をそのまま生かし、大工による新しい造作とのバランスに配慮した。また、奥様が小さな子供達の様子を確認できる環境で家事を行えるように間取りを計画し、動線もなるべく簡素化している。

建築主	非公表
設計者	道本 聡さん「術道建設」 TEL(082)2326483
施工者	國岡 拓也さん「術道建設」 TEL(082)2326483
企画 立案者	大賀 渡さん「術道建設」 TEL(082)2326483
補助 制度等	「国」省エネ住宅ポイント



廊下を減らし、LDKは広くゆったりとしたスペースを確保している。



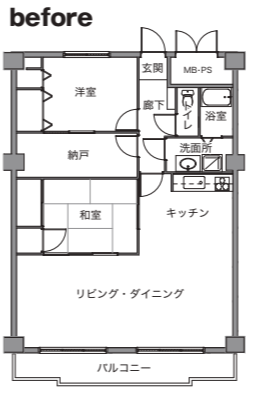
子ども部屋の廊下側には室内窓を設け、光と風を取り入れることができる。将来的に2室に区切れるようにした。



テレビ奥の小上がりは仕切れることもでき、兼室としても活用。サンルームは室内物干しとしても活用。



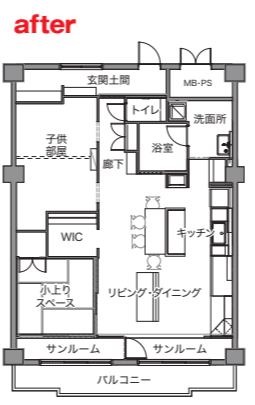
キッチンは大工さんの造作。キッチンの横に作業台とパソコンスペースを配置している。



掃出し窓に沿って、サンルームを設け、植栽をディスプレイするスペースとして活用している。



ガラスブロックの奥は浴室である。キッチンは壁側にシンク、対面側にコンロを配置している。

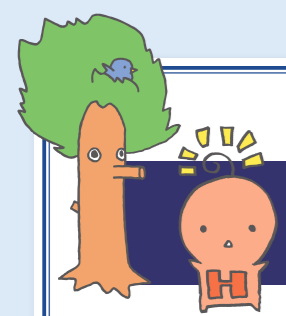


奥に長く収納スペースを設け、手前には靴棚、奥にはアウトドアグッズなどをたくさん収納できる。

創意工夫点
 築35年、約86㎡で2LDKだったマンションの一室をスケルトンにし、リノベーションした。収納量豊富な玄関の「土間」、室内に植栽をディスプレイできる「サンルーム」、浴室にも光を取り入れる「ガラスブロック」、寝転んだり、腰掛けたりできる畳敷きの「小上がり」など、プランには実現したい要素を盛り込み、さらに施主自身のDIYによる照明や飾り、天井から吊るしたハンモックなどでアレンジを加えた。

建築主	非公表
設計者	假屋誠さん [株式会社SMART ONE DESIGN] TEL(082)275-6395
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ

写真/野村和慎



ひろしま住まいづくりコンクール2016 概要

趣旨・目的
 住まいづくりの現場で日々生み出されている、建築主の想いや事業者の創意工夫にあふれた住まいは、これから住まいづくりをする人にも、とても参考になるものです。
 このコンクールは、優れた住まいづくりを表彰し、住まいづくりの見本・参考事例として広く紹介することにより、本県の住環境のさらなる向上と住宅産業の活性化に寄与することを目的としています。
 耐震や省エネルギー、本県の地域性などに配慮しつつ、建築主の求めるライフスタイルを形にした、新しい「ひろしまの住まいづくり」が発見できることを期待しています。

- 審査委員会 (敬称略)**
- 委員長 福田 由美子 [広島工業大学 教授]
 - 委員 平野 吉信 [広島大学大学院 教授]
 - 委員 城野 敏江 [(独)住宅金融支援機構中国支店 支店長]
 - 委員 元廣 清志 [(公社)広島県建築士会 会長]
 - 委員 衣笠 准一 [(一社)広島県建築士事務所協会 副会長]
 - 委員 龜谷 清 [(公社)日本建築家協会中国支部 支部長]
 - 委員 岩田 忠二 [(一社)広島県建築センター協会 理事長]
 - 委員 長谷川 順 [広島県住宅産業四団体協議会 世話人代表 (一社)広島県住宅産業協会 事務局長]
 - 委員 田中 健太郎 [(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部 副支部長]
 - 委員 宮地 正人 [広島県土木建築局 建築技術部長]

応募総数 59作品(リフォーム部門31点,新築部門24点,空き家再生部門4点)

- 賞について**
- ◎広島県知事賞1点
 - ◎リフォーム部門 最優秀賞1点 優秀賞2点 奨励賞1点
 - ◎新築部門 最優秀賞1点 優秀賞2点 奨励賞2点
 - ◎空き家再生部門 優秀賞2点
 - ◎特別賞 三世代の住まいづくり賞1点 まちなかに集うくらし賞1点

スケジュール

エントリー登録受付期間	平成28年8月19日～9月23日	最終選考	平成28年12月20日
作品応募受付期間	平成28年9月1日～9月30日	結果発表	平成29年 1月19日
書類審査	平成28年10月14日	表彰式	平成29年 3月21日
現地審査	平成28年11月11日,18日,23日	受賞作品展 (県内各市町)	平成29年 4月上旬から約1年間

コンクール応援隊は、ひろしま住まいづくりコンクール2016 を応援しています。



コンクール応援隊に関しては、広島県住宅課にお問い合わせください。





家族全員での梁、柱、天井の塗装工事。



2階の子供部屋の仕上げ天井材のペニヤを600枚の中から選別。化粧となる。



全面道路からアプローチを歩いて行くとタモの木が迎えてくれる。



アプローチから建築正面を見る。ウッドデッキでは子供たちがトランプをして遊んでいる。



離れの和室に入る為の玄関土間。天然石の飛び石は、設計者自ら山に登り選別した。



2階にいながらも1階にいる家族の存在を感じることが出来る。



リビングから続くウッドデッキは子供達が内と外を自由に遊びまわる場所。



子供部屋から庭、リビング、土間を見渡す。



階段側からLDを見る。開放感のある全面ガラスから光を取り入れ、ダイニングから土間そして庭へと緩やかに繋がる。



リビングから土間。ダイニング、スチール階段。



ウッドデッキから土間空間の玄関、そして離れの和室を見る。

選評 審査委員 龜谷清
旗竿敷地の持つ閉鎖的特性をうまく利用し、プライバシーの確保された南の庭と土間やリビング、ダイニングが一体となった開放的な空間とし、この部分に設けられた吹抜けを介し1階と2階を一つの空間にすることで家族の気配が何処でも感じ取れるように作られた空間構成が庭と2階を繋げ、自然の光や風を取込んでいく作りが巧みである。全体に木の構造の美しさを活かすよう工夫がなされ、魅力的な住まいとなっている。

創意工夫点
旗竿状の敷地で、家に囲まれた暗さや圧迫感を感じる、そんな土地を、建築を通してどのように解決するか。旗竿状の土地の先には、全面開口ガラスを設けた。日差しの問題は深い軒で日射をコントロールした。パブリックスペースとプライベートスペースを分けながらも吹き抜けや土間スペースを設ける事で、2つのスペースが緩やかに繋がっていくような計画とした。

建築主	非公表
設計者	大町知己さん [kio_kio]
TEL	(084) 96113302
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ



夜は玄関のFIXガラスに室内のリングが反射し、室内が外部まで浸透しているかのように見える。



玄関から仕事場兼宿泊室を臨む。段差が腰掛となり、いつしか人が集まる空間となっている。



室内から南側開口部を臨む。 前面道路からエントランスへのアプローチ。



前面道路から建物正面を臨む。



敷地南側上空から見下ろした建物と、南側開口部から建物内部へと貫入するリング状の土間。



すっきりリビングの一部となった仕事部屋兼宿泊室と、それを囲むリング状の回廊。



向洋の家

広島市



通り庭上部のバルコニー。光や風を通すため床はグレーチングを利用し、手摺で道路からの視線を遮っている。 通り庭に面して配置した片廊下式のホール。通り庭から光や風を受け取る縁側のような存在。



通り庭側からの採光により、窓を開放しても外部からの視線は入ることなく、開放的に過ごすことができる。



2階は水周りも含め一繋がりとなるシンプルな間取とし、全てのスペースで光を共有できるようにした。



LDKに面した畳コーナー。子供達の勉強机となり、キッチンにいる母親からも見渡せる環境とした。



南北の道路を繋ぎ合わせる通り庭。アプローチや縁側・遊び場といった様々な役割を担った場所となっている。



1階へ光を落とすグレーチング床。水平・垂直面の視線の抜けをつくり密集地の狭苦しさを無くしている。

道路面の窓は最小限とし、通り庭側に開くことにより、採光を確保しつつプライバシーが守られている。



トンネルの家

広島市

選評 審査委員長 福田由美子
 少人数家族、高齢期、趣味の実現という課題に対して「小さな家」可変性のある空間「地域に開く」リビングで内外をつなぐといったテーマを掲げる「こと」により、「老後の住まい」の新しいあり方が提案されている。前面道路との間に仕切りを設けず、建物の向きや開口部を工夫することで、住み手と外部との間に見られる関係を生み出している点や、柔軟性のある空間づくりで将来の展開を広げている点が評価される。

創意工夫点
 敷地に比して建物をコンパクトに設計しつつ、ひとつながりの空間を建物中央に配置し可動壁によって大小の空間に分割可能とすることで、さまざまな使い方ができる「小回りの利く小さな家」を実現した。また、建物に貫入するリング状の土間が、内外のつながりを無限に続く環状のシークエンスとして実現し、これにより内部と外部との連続性をより強く意識させ、内外のアクティビティが相互に刺激しあう空間を実現した。

建築主	非公表
設計者	藤原 慎太郎さん・室 喜夫さん 「藤原・室建築設計事務所」 TEL(06)676115577
施工者	静川 裕之さん「南ホームテック」 TEL(082)8403230
企画立案者	設計者と同じ

選評 審査委員 岩田忠二
 住宅密集地の南北二面道路に面した敷地において、玄関へのアプローチ（通り庭）を取り入れながら採光・通風に工夫され、シンプルな造りでありながらプライバシーも確保された設計である。通り庭が、近隣とのコミュニケーション・子育てにも有効に活用されるスペースとなる可能性を含む建物だ。

創意工夫点
 敷地は建物が乱雑に建ち並ぶ密集地に位置し、南北二面の道路に接している。この密集地の中でプライバシーを守りながら明るく開放的に暮らせるよう、南北二面の道路を繋ぎ合わせ、町家のような通り庭をつくり、密集した環境に空いたスペースを生み出した。この通り庭が、住まいのアプローチとなり、光を導く縁側となり、風の通り道となり、子供達の遊ぶ中庭となり、様々な役割を担う場所として外と内の境界を緩やかに繋ぎ、窮屈な環境にゆとりをもたらす場所となっている。

建築主	非公表
設計者	櫻井 朗さん「KALEIDO DESIGN」 TEL(082)2245805
施工者	水田 優樹さん「榎大和興産」 TEL(082)8141111
企画立案者	設計者と同じ



レモンド自邸の中庭を写した写真がこの家の原点で、その実現した姿である。



背後に広がる山並みに呼応するような屋根のカタチや2階建て部分を低く抑えたデザインで周辺環境に配慮。



ソファを壁面沿いに塗り付けることで、場所を取るソファスペースをなくし、リースペースを大きくとった。



低い天井高(2.2m)ではあるが、納まりを工夫することで、落ち着きと空間の広がりを出す。



屋根垂木の余りをフレームにした大工さんの手づくりキッチン。アクセントに古材を使用。



大量の書籍をどこにしまおうかという課題に対して、中庭に面した応接間に壁面本棚を設け、図書室のような趣に。



レモンド建築の特徴であるシザーストラスを再現。



LDに設置された暖房用のエアコンは床下に温風を吹込み、家全体を暖房。



照明を灯すと真っ暗な夜に浮かぶ行燈のように家に変化。

創意工夫点
家の性能が変われば暮らし方も変わる。この家では断熱性能を寒冷地の次世代省エネ基準(1地域・UA値0.46)以上の性能(UA値0.36)に高めたことにより、真冬でも普及品の暖房器具を使い、最低限のエネルギーで家全体の室温を20℃前後に保つことが可能になった。間取りもオープンな作りとなり、廊下がなく、トイレや脱衣室の室温もリビング等との温度の境界がなくなった。性能の変化で「暮らしをデザイン」する意味が変わったのである。

建築主	西本浩司さん
設計者	西本浩司さん「中川建設」 TEL(0827)591125
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ
補助 制度等	「国」住宅のゼロエネルギー化 推進事業



インナーテラス正面 左手がリビング、右手が庭。両側にガラス引戸があり、開閉によって季節に合わせた環境調節ができる。



オリーブや煙突が印象的なインナーテラスの外観。冬には深く日が差し込み、陽の高い夏には深い軒が影を作る。



リビングからインナーテラス越しに中庭を望む 横長い庭が奥行きを生み、庭と並走する廊下が客間との間に位置するプライベートルームをつなぐ。



中庭よりインナーテラスを見る 150ミリごとの段差で庭とリビングを緩やかに連続させる。



山を背景に折り重なる切妻の外観。

創意工夫点
東西に横長の敷地にインナーテラスと中庭を内包したコの字型の平屋。インナーテラスはリビングと中庭をつなぐ位置にあり、建具の開閉や薪ストーブの使用によって季節に応じて庭と一体化したり、リビングの部になったりと環境のレギュレータとなる。外観は焼杉の横張りで、周辺の山の景観を取り込み、高低差をつけた4つの切妻の棟によって周辺との調和を図っている。

建築主	非公表
設計者	後藤亜貴さん 「後藤亜貴建築設計事務所」 TEL(084)9415404
施工者	三谷道昭さん「大和建設」 TEL(084)9244411



古さを慈しみ、若い世代が繋ぐ家

広島市



畳スペースは6帖分残し、周囲にフローリングを張ることでワンちゃんも走り回れるLDKに。



2階にはご夫婦が使用できるサニタリースペースを設置。元は収納スペースだった。



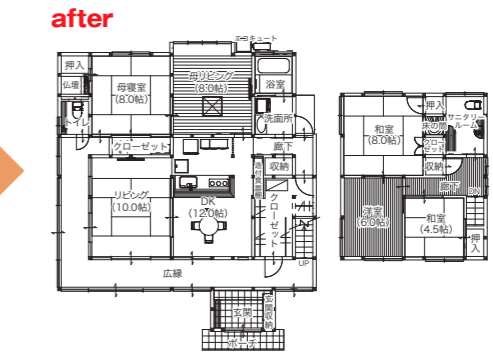
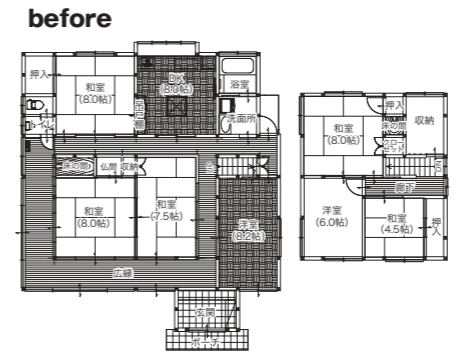
入れたいもののサイズをしっかり測り、びったり収まる家電収納。



キッチンカウンターの壁面には、コレクションとしても魅せるお酒の瓶を並べられるようニッチを設けた。



水栓・手洗い器・ペーパーホルダー・収納全てにこだわって吟味。正面には壁厚を利用した「隠し収納」。



創意工夫点

若い夫婦が昭和の建築様式を新鮮に感じられ、中古物件をリノベーション。欄間や型ガラスの建具はそのまま再利用し、レトロな雰囲気を残した。田の字中央の廊下は収納スペースとし、各部屋の独立性を保っている。

続き間の和室は大きなLDKとして対面キッチンが家族の中心となっている。全体の間取り変更に合わせて急勾配の階段も位置を変えて緩やかなものに架け替え、安全性を高めた。水廻りや玄関も新しく、近代的な機能は確保している。

建築主	河野 夏樹さん
設計者	田中 健太郎さん(㈱タナカ住建)
TEL	(082) 842・8503
施工者	野口 智明さん(㈱タナカ住建)
TEL	(082) 842・8503
企画 立案者	設計者と同じ

選評 審査委員 城野敏江

空き家となっていた郊外の住宅を若夫婦が購入して再生した事例。床柱、欄間や建具を再利用して昭和時代のレトロな雰囲気を受け継いでいる。一方、二階続きの和室を改装したLDKの壁面には、エコ素材(OSSBボード)を大胆に取り入れているのが印象的である。住まい手によるDIYを通じて、手を加えながら育てていく楽しさを感じる住まいであり、低質な工事費により空き家を再生し、若年世帯の郊外への住み替えを実現した好例である。

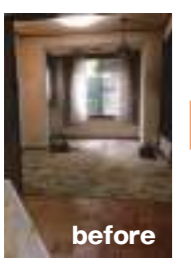


街中のアトリエ付住宅「今と昔が出会った家」

広島市



漆喰の磨き仕上げの壁、オークの床材で心地よく上質なLDK空間に。



before



清々しいしつらえの玄関。アンティークのインテリアに合う玄関タイル。



シンプルなコンクリートの白壁に、やわらかい光のふるアトリエ。

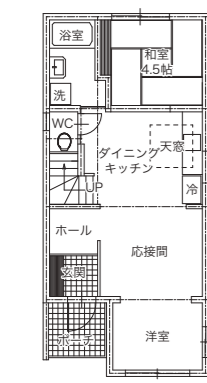


暮らしやすい動線の中にレトロな雰囲気大切に。

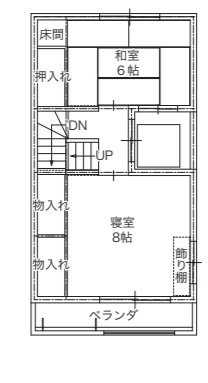


1階道路側の部屋を減築して駐車場を確保し、明るくなった外観。

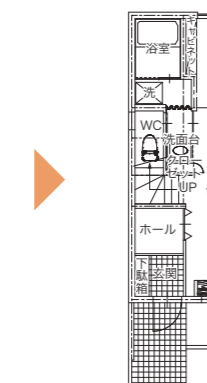
before



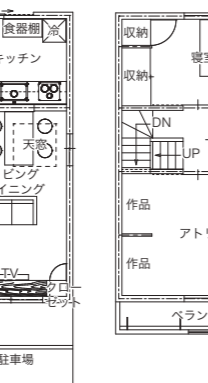
after



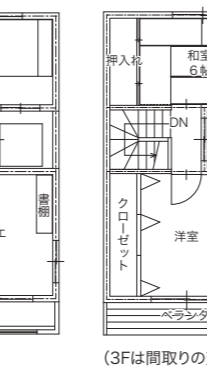
after



after



after



after



(3Fは間取りの変更なし)

選評 審査委員 城野敏江

長い間空き家だった街中の狭小住宅を購入し再生した事例。アンティークな建具や照明を再利用し、それに合わせた洋館風の内装・建具工事を行うことにより、一層、住まいの個性を効果的に引き出している。また、共働き夫婦が機能的に暮らすための水回りや収納の配置、駐車場を確保するための減築など、今の暮らしを快適にするためのきめ細やかな設計上の配慮もみられる。古さと新しさの共存が新鮮さを感じる住まいである。

創意工夫点

築年数を経た狭小のRC住宅という制限の中で現代に合った暮らしやすさとレトロな洋館風の上質な空間を求めた。和室、キッチン、ダイニング、応接室と区切られていた空間を対面式のキッチンと続きのLDKに改修、トイレ前に小さいながらも洗面室を新設、身支度が楽に行えると同時にリビングからトイレが見える不便さを解消した。共働きのご夫婦が帰宅しやすく着替えができて、くつろげるように1階に収納を工夫した。既存の建具の雰囲気と合う新しい建具を造作。古いものと新しいものを共存させた。

建築主	西村 賢志さん・西村 麻里子さん
設計者	品川 洋子さん(㈱エドサイエンス)
TEL	(082) 849・5668
施工者	設計者と同じ
企画 立案者	設計者と同じ



「栗原町の家」

三世代で支え合う暮らし

尾道市



南側全景:左側が子世帯(新築),右が親世帯(リフォーム)。里道に面して子世帯の玄関が設けてある。



子世帯外観:2階に大きな窓を設け吹抜から光を取り入れる。上部の三角屋根はロフト部分。

子世帯1階:食堂上部の吹抜を中心に、それぞれの空間が立体的に繋がっている。



中庭より子世帯を見る:右側が親世帯。お互い縁ごしに気軽に声を掛けられる。



改修前 里道側からの全景。



親世帯1階:台所より食堂・居間を見る。階段の左側に浴室やトイレがあり、2階へも気配が繋がる。



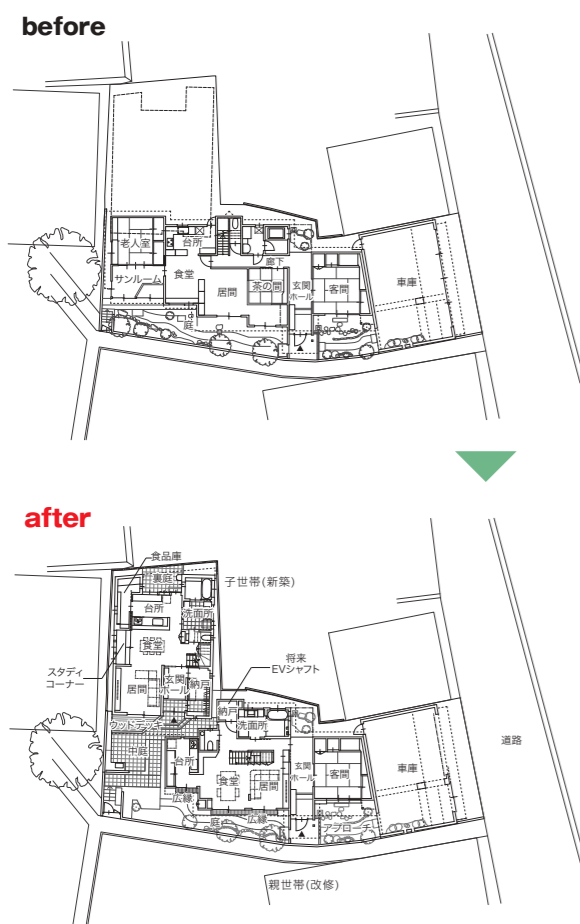
親世帯縁側:通路の先に中庭があり、子世帯の縁側へと繋がる。



親世帯2階 主寝室:洋室へ改修し、ベッド廻りに余裕を持たせた。窓の外にウッドデッキが続く。



親世帯外観:交通量が増加したので、1階はオーバースライダー、2階は縦格子でプライバシーを確保した。



子世帯2階:中心にある吹抜は光や風を届けるだけでなく、家中どこでも家族の気配が感じられる。



東側全景:左側が親世帯(リフォーム),右が子世帯(新築)。外観は親世帯と周辺景観との調和を図った。

創意工夫点
隣に子世帯の家を新築することになった。これに合わせて親世帯もリフォームを行い、三世代で支え合う暮らしが描かれた。1階は二世帯が程よい距離感を保てるよう、中庭を介してゆるやかに繋がる。中庭には子世帯の縁側を設け、親世帯の庭へと続いている。お互いが縁側から気軽に声を掛けられるような関係になった。2階は内部で直接行き来できるようにして生活の変化へ備えた。いつも家族を感じられる安心な住まいが完成した。

建築主	非公表
設計者	平田 欽也さん 〔二級建築士事務所アトリエ平田〕 TEL(082)92226700
施工者	岡田 誠二さん〔山陽建設機〕 TEL(0848)6221115

選評 審査委員 衣笠 准一
親世帯(リフォーム部門)と子世帯(新築部門)が「絆」を感じさせる隣居型の住まいである。世帯間を中庭の設置と動線の工夫により外・内部をつなぎ、安心と程よい距離感を保持、それぞれの世帯はダイニングに中心性を持たせ、子世帯は上部に吹抜け、親世帯は開放的な階段を設けることで1・2階の連動性の確保と家族の気配を感じられる設えである。生まれ育った土地で三世代が支え合って暮らす関係性を意識した住まいである。親世帯は耐震補強、断熱性の向上、省エネシステムの導入、子世帯は高断熱、床冷暖房システムの導入により快適で安全な生活を実現している。

選評 審査委員 長谷川 順
これら2つの住宅は、両親が高齢になったのを機に、実家に隣接する敷地を購入して子世帯の家を新築するとともに、築28年が経過した親世帯の実家をリフォームしたものである。この2棟は、1階は中庭を介してつながっており、2階はウォークインクローゼットを介して行き来できるようになっており、二世帯が気兼ねなく安心して暮らせる住まいである。これらの住宅は、親世帯と子育て中の子世帯が近居する建て方であり、世代間の子育てや将来の親の介護等が可能な住環境となっており、三世代が快適に暮らしている住宅の良い参考となる作品である。



杜のアレイ(横丁)

ヤマモミジの家
ヤマボウシの家

海田町



敷地北東の薬師禅寺から臨む町並み／左手奥は熊野神社の杜。古き良き海田の街に織り込む、小さなまちづくりの第一歩。



西国街道に近接した歴史ある街に新しい表情をつくる／三敷地の舗装・植栽を統一した広場のようアプローチ空間と、軒の深い瓦屋根の連なる雁行した配置計画。



ヤマボウシの家・キッチン／将来的に料理教室を開催したいという希望に応えたアイランドキッチンは、この家のココポイント。



ヤマモミジの家・リビング／全て引き込める間仕切りや広いデッキテラスで、室内外が一体につながる。



完成見学会・勉強会の様子／大工や左官など多様な職人技術を披露し、身近な住まいづくりがまちづくりや森づくりにつながる可能性を紹介。



地域の材と技術でつくり、守り育てる住まい／地域の木材産業と大工・工務店が連携することで実現する、広島の森を身近に感じ、愛着の深まる家づくり。



三棟に連なる石積みとラカンマキの生垣／石積みを街の記憶として保存活用。熊野神社につながる緑の小路を演出する。



互いの庭を借景し合うヤマモミジの家(右)とハナミズキの家(左)／2階のボリュームはコンパクトに抑えつつ、明るくのびのびとした室内空間が得られるつくり。

選評 審査委員 平野吉信
接道が十分でない既成密集市街地の中に取得された三軒分の敷地において、3年にわたる施主・施工者・設計者間の密接なかわりあいの中から、それぞれの区画が互いに寄り添うアプローチと、雁行した三棟の配置計画をもち、屋内外が一体的につながる、また近所の鎮守の杜をも景観に取り込んだ、新しい表情を持った小さくも豊かな街並みを創り上げた。歴史を持った既成住宅地を住み継ぐことが求められるこれらの居住の場づくりへの二つの提案として高く評価できる。



ヤマボウシの家・2階主寝室からの眺め／主寝室の東窓からは、小路の緑と石州瓦の屋根並みが、山並みにつながる。

創意工夫点
「杜のアレイ」は三軒を一体的に計画することで、単独では難しい、豊かな緑と広がりを感じられる住まい、街並みをつくる取り組みである。
西国街道に近接した歴史ある街にふさわしいまちづくりと、地域の材料や職人技術を積極的に活かした、ふるさとを身近に感じられる住まいを目指した。
この街の成長を住まい手と一緒に見守りながら、近隣の方々にとっても大切な風景に育つてくれることを願っている。

制度等	補助	企画	立業者	施工者	設計者	建築主
地域型住宅グリーン化事業	(国)	今井信博さん(関現代計画研究所)	TEL(03)39948601	竹野内 政信さん(関竹野内建設) TEL(082)8227711	岡本 祐紀さん(ヤマモミジの家) 井上 拓哉さん(ヤマボウシの家) [関現代計画研究所] TEL(03)39948601	川崎 裕幸さん(ヤマモミジの家) 藤岡 剛さん(ヤマボウシの家)



主 催 広島県
ひろしま住まいづくり支援ネットワーク

広島県, 呉市, 福山市, 三次市, 東広島市, 廿日市市,
(独)住宅金融支援機構中国支店, (公社)広島県建築士会,
(一社)広島県建築士事務所協会, (公社)日本建築家協会中国支部,
(一社)広島県建築センター協会, 広島県住宅産業四団体協議会,
(一社)日本住宅リフォーム産業協会中国四国支部

後 援 中国新聞社, NHK広島放送局, 中国放送,
広島テレビ, 広島ホームテレビ, テレビ新広島,
広島エフエム放送, 国土交通省中国地方整備局

事務局 ひろしま住まいづくり支援ネットワーク
「ひろしま住まいづくりコンクール2016」事務局

(公社)広島県建築士会 事務局
〒730-0052 広島市中区千田町3-7-47 広島県情報プラザ5F
TEL082-244-6830(代)